

学校だより

NO 3

令和5年5月13日発行



伊勢市立倉田山中学校
伊勢市神田久志本町 1645-2
校長 金森 晃 生
電話 22-9415
FAX 22-2198
E-mail
kuratayama@jr.ise-
mie.ed.jp

学校教育目標 「心やさしく、思いやりの心を持ち、たくましく、知性豊かな倉田山中生徒の育成」

◇令和5年度 学校経営計画◇ ～ 目指す学校像 ～

1 目指す学校像

本校の学校教育目標は「心やさしく、思いやりの心を持ち、たくましく、知性豊かな倉田山中生徒の育成」である。また、目指す学校像は、「みんなが安心して、楽しく登校できる学校」であり、そのために①確かな学力を育て、学び合う楽しさを実感できる学校 ②一人ひとりの子どもを大切に、子どもの発想や個性を大切にする学校 ③心身の健康を育み、人権感覚豊かな学校 ④家庭や地域との連携を深め、地域に根ざした学校の4点を中心に教育活動を進めていく。

私たち教職員は、学校教育目標を達成し、目指す学校像の実現のため、自覚を持ち、学校に求められている教育課題と責務を深く認識しなければならない。そして、保護者や地域の期待と信頼に応えるために、全教職員の英知と活力を結集し、一つ一つの課題を解決するために真摯に取り組まなければならない。「生徒のために」ということを常に意識し、生徒との関わりを大切にして、全ての教育活動に全力で取り組む姿勢を持ちたい。

特に①学習規律を確立し、「確かな学力」の定着と「自ら考え、探求する力」を育て、学力の向上を図る。②規律正しい生活が基本と考え、校内生徒指導部会の方針に基づき学級担任を中心とした生徒指導を原則としつつ、学年団や学校全体で連携を図りながら効果的な指導を行う。また、校外学習・体験活動・行事等の活動を通じて、「社会参画力」の育成を図りたい。その他にも、保護者、地域の方々が多数来校される運動会や文化祭、学校と地域のつながりである資源回収等の行事を生かし、これまで以上に地域から信頼され、親しまれる学校にしていきたい。

新型コロナウイルスの影響を受ける以前の活動に戻る中で、生徒にとって何が必要かを再認識しながら、一つ一つの内容を検討し再構築しながら、充実した学校教育を目指す。

2 学校を取り巻く環境について

倉田山中学校は、校区には市役所をはじめと多くの公的施設がある。また、自然豊かな倉田山に立地し、周辺には私立中学校や県立・私立高校及び私立大学が点在した伊勢市の文教地区に位置している。平成16年8月には校舎が新築され、整った設備を有している。

このように恵まれた環境で、生徒は学習や部活動、生徒会活動等に熱心に取り組んでいる。また、保護者のみなさまや地域の方々は倉田山中学校への強い愛校心を持っていただいております、教育活動に対する関心も高く、多くのことに協力していただいている。

調整区域からの入学生については、近年、有緝小学校区の生徒が減少し、浜郷小学校区の生徒が増加している状況である。

3 生徒の状況について

生徒数は第1学年131人、第2学年148人、第3学年146人、計425人（特別支援学級在籍生徒5人を含む）。学級数は第1学年4学級、第2学年5学級、第3学年5学級、特別支援学級1学級の計15学級である。

全体的に前向きな生徒が多く、学習活動、部活動、学校行事、生徒会活動等に積極的に取り組んでいる。毎年のように、いくつかの運動部が全国大会、東海大会等に出場しており、文化的な活動にも意欲的に取り組み、表彰を受けることも多い。

学校行事においても、参観していただいた保護者や地域の方々から賞賛をいただいている。しかし、生徒一人一人の生活環境は多様であり、各家庭により、様々な生活様式がある。また、学校に登校しづらい生徒や、特別な支援を必要とする生徒も少しずつ増加する傾向がある。さらに、生徒指導上の課題やいじめの問題等については、本校においても取り組むべき重要課題である。学習活動において、個別の指導を必要とする生徒や特別な支援を要する生徒への指導も大きな課題である。

4 保護者、地域からみた学校について

近年は保護者による学校評価ではどの項目も概ね評価が高く、その中でも、教育環境、学校行事、学級活動、学校への信頼の項目については特に評価が高かった。一方で、「確かな学力がついてきている」の項目については、決して高い評価とは言えず、よりわかりやすい授業への取り組みが必要である。また、コロナ禍により、学校が保護者や地域に開放できていないこともあり、これからの教育活動が課題である。

PTA活動は充実しており、保護者のみなさまは、学校に協力的であるが、そのことに甘えることなく、全ての生徒に対して愛情を持ち指導していくことが求められている。

地域の方々には地域内での生徒の様子、また、資源回収活動、登下校の様子など学校外での生徒の姿を通して学校を評価していただいている。ご指摘を受けることは少ないが、中学生らしくない（危険な）生徒の行動について時折ご連絡をいただくことがある。学校としては、迅速で適切な対応が求められている。

5 教職員について

全ての教職員は、倉田山中学校の教職員であるとの自覚を持ち、生徒一人一人の強みと弱みを見極め、保護者や地域の方々の期待と信頼に応えるために、学校教育目標の達成に全力を尽くしている。時間を惜しまず、あらゆる教育活動に熱心に取り組む。さらに、生徒の休憩時間においても生徒の行動を把握するため、より多くの時間を生徒と共有しようとする教職員の姿が多く見られる。これはすべて「生徒のために」という意識を強く持っているからだと思われる。この思いを基本に、教職員全員が自分の役割に基づき、責任と自覚を持って、特性を生かすことで学校教育目標の具現化を図りたい。ただし、勤務時間が非常に長く、疲れがとれぬまま教育活動に取り組む教職員もおり、働き方を見直し、常に心身ともにリフレッシュした状態で生徒と接することが重要である。

学校の周りには同じ倉田山の地に私立の中学校がある上、他の中学校区との調整区域も多い。教職員は生徒とその保護者から選択される学校の一つであるという本校の状況を認識し努力している。しかし、慢性的な多忙感と過重労働により健康を害することが懸念されることから、教職員の勤務時間の上限を定め、上限を超えないようにすることを原則にするとともに、計画的な休暇取得などメンタルヘルスに十分に配慮し、常に新鮮で意欲的に職務に取り組める職場の環境づくりの確立を目指したい。

6 学校経営方針

学校教育目標達成のため、毎年、自己評価、生徒アンケート、保護者評価を実施し、教育課程の改善に取り組んでいる。引き続き授業時数を確保し、校内研修を中心とした授業の指導方法の工夫・改善など、充実を図りながら、学習指導要領の趣旨に沿った教育課程の編成に努めていきたい。

生徒が全ての教育活動に意欲的に取り組むようになるには、確かな学力の保障と、生徒指導の充実が不可欠である。そして、学校は生徒や保護者のみなさまとの信頼関係をもとに、学級担任を中心として各学年団及び学校全体で気持ちを一つにすることが大切である。また、生徒のよい面をきちんと認め、自己肯定感を持たせることも必要である。さらに、生徒一人一人にカウンセリングマインドをもって接するとともに、生徒一人一人が人権感覚を確かなものにするために、思いやりの心をもった人権感覚あふれる学校づくりに努めていきたい。わかりやすい授業を実施するために、教材・教具、特にタブレット端末や電子黒板などのICT機器を積極的に活用するなど、指導方法の工夫改善に努めたい。また、指導と評価の一体化をめざした適切な評価等に取り組むたい。

さらに、生徒が学校行事に主体性を持って意欲的に参加できるように支援し、達成感を味わうことを通して豊かな人間性を育成したい。部活動においても同様に全教職員で努力を続け、全ての教育活動を「生徒のために」という意識で取り組むたい。

以上のような倉田山中学校を目指したいと考えています。この1年、よろしく願いいたします。